

板橋区医師会 70 周年記念誌 — 近年 20 年史 (1997 ~ 2017) —

医会のあゆみ



医会のあゆみ

板橋区整形外科医会
板橋区内科医会
板橋区小児科医会
板橋区眼科医会
板橋区耳鼻咽喉科医会
板橋区在宅医会
板橋区医師会循環器医会
板橋区皮膚科医会
板橋区女性医師の会
板橋区産業医会
板橋区スポーツ医会
板橋区産婦人科医会

板橋区整形外科医会

板橋区整形外科医会 会長
篠遠 彰

板橋区整形外科医会会長の初代は平成元年より初海茂先生、2代目は平成9年から10年に仁木敦子先生、3代目は平成11年から12年に北村洋一先生、平成13年からは私で4代目になります。現在医会会員は板橋区医師会員としては40数名ですが、医師会員でなくても板橋区の大きな病院の整形外科医師も数名加わってくださっています。会費はかつて徴収したことがありましたが、使い道が限られた人達の懇親会経費やゴルフコンペ景品などが主だったために廃止にしました。その後徴収していませんが、数年前までは医会の集まりなどに対して製薬会社の金銭的援助も許容されていましたので、その恩恵によりあまり会費の必要性を感じずにいられたことも理由の一つでした。今後はどのような形で会を運営していくのか検討課題の一つです。

現在医会の催し物としては、学術講演会を年に1~2回開催し、その後の懇親会を情報交換の場としています。講演会の講師としてはやはり日本大学医学部の先生が多かったですが、会員の中で板橋区の病院で手術を活発にされている先生にもご登壇いただきました。また年に1回は城北整形外科医会の講演会を豊島区、練馬区、北区との持ち回りで開催しています。講演会以外

ではかつて奥村栄次郎先生の発案で、あるテーマ（創傷処置など）についてそれぞれの診療実践を披露し合う会を設けたこともありました。その他には年に2回ゴルフコンペを開催し、会員と製薬会社のMRさん共々懇親を深めています。

現在、会員の田邊秀樹先生が日本臨床整形外科学会の理事長ですし、奥村栄次郎先生が東京都臨床整形外科医会の会長で、同時期にこのような重責を担っている会員がいる医会は無いのではないかと思います。整形外科は昨年からはまった小、中学校の運動器検診の受け皿としてや、骨粗鬆治療やロコモの普及など超高齢社会の健康寿命の延伸に関わる医療の要として、多くの面で地域医療の活動に貢献することが求められています。いろいろな社会的ニーズに対して諸先生方とも相談して対応していきたいと思っています。



整形外科医会講演会

板橋区内科医会

板橋区内科医会 会長
藤田 雅巳

私は前医会長の萩原照久先生に代わり、平成28年6月より医会長を拝命いたしました。板橋区内科医会は現在66名の先生方にご登録いただいております、内科系診療に携わる先生方に講習会や研修会を通じて医療情報を提供し、日常診療や地域医療に貢献することを目的に活動しております。また東京都内科医会、臨床内科医会などとも連携を図り研究や臨床調査活動なども行っております。会員の主な業績として、弘瀬哲先生らは通院患者の排尿障害についてアンケート調査を行い、多施設共同研究における結果を報告しました。また、伊藤景樹先生は糖尿病性神経障害の合併頻度について

報告しております。さらに、依藤壽先生は日常診療における臨床報告や患者対応の留意点についてなど多数の発表をされております。筆者を含め多くの先生方が板橋区医師会医学会などで活発な発表、論文投稿を行っております。

今後も会員向けの講演会の開催や、先生方の研究・症例検討などの発表会を企画してまいります。先生方のご参加をお願い申し上げます。

平成8年以降の歴代医会長
平成8年11月21日 望月紘一先生
平成23年9月30日 萩原照久先生

板橋区医師会医学会

(敬称略)

回	氏名	演題名
第12回	伊藤景樹	板橋区における糖尿病患者の足に関する実態調査結果報告(中間解析)
第13回	弘瀬 哲、弓倉 整、萩原照久、望月紘一、他	板橋区の内科医による排尿障害調査結果について
第16回	依藤 壽	重度糖尿病(初診時HbA1c16.0)の10年の経過から学んだ数々の教訓～身体的・精神的機能低下状態からの復活～
第16回	藤田雅巳	当院における脈波解析に基づいた高血圧診療
第19回	依藤 壽	当院におけるヒヤリ・ハットの傾向と対策～症例から学ぶ～
第19回	大野安実	当院における非弁膜症性心房細動の検証

板橋区小児科医会

前 板橋区小児科医会 会長
宮川美知子

昭和50年代には、板橋区で開業している小児科医の親睦会があったようですが、組織づくりには至りませんでした。平成12年頃から、鈴木育夫先生、依藤壽先生、そして宮川が中心になって、小児科医会設立を計画し始めました。当初、誰が小児科専門医かわかりませんでしたので、まず第一標榜科目が小児科の医師会会員に声をかけました。その後、小豆沢病院と板橋区医師会病院の小児科医師にも入っていただいて、平成14年1月には総勢17名で「小児科新年会」を開催しています。平成14年春には名称を「小児科医会準備会」と決めました。同年、「医療連携」と「研修」を目的として日本大学医学部附属板橋病院、帝京大学医学部附属病院、都立豊島病院(当時)の3病院から講師を招いた3回の講演会と新年懇親会(医師会病院講師の講演)を開催しました。

並行して、医会組織の正式発足に向けての準備も本格化します。東京の地区医師会と東京小児科医会に平成14年2月28日付でアンケートを実施、多くの回答を得ることができたので、これを基に医会設立の詳細を協議、会則などを決めました。名称を「板橋区小児科医会」とし、同年8月25日の板橋区医師会理事会で、医師会内に会を

設立することが承認されました。

医会の運営は運営委員が中心になって行うこととし、医会設立準備に関わった17名の内16名が運営委員に就任しました。第1回総会と定例会を平成15年5月13日に開催、会長：宮川、副会長：鈴木育夫先生と依藤壽先生とすることなどが承認されました。以後の活動は、定例会開催以外に「区内病院見学会の開催」、「予防接種についての要望書提出」、「予防接種勧奨ポスターの作成」などを行ってきました。また、不定期で会報「医会だより」を発行する他、電子メールやFAXでの迅速な情報提供を行っています。

平成29年7月現在で会員63名(運営委員23名)、年会費5,000円、年4回の定例会講師は全国からお招きしており、新年懇親会以外は医会会員でなくても参加可、日本小児科学会専門医研修集会単位と(子どもの総合医)地域総合小児医療認定医単位、日本医師会生涯教育単位を付与しています。



2017年1月開催:新年定例会

板橋区眼科医会

板橋区眼科医会 会長
北村 篤

板橋区医師会 70 周年おめでとうございます。70 周年に臨み、板橋区眼科医会について述べます。

板橋区眼科医会は創立 100 周年を迎えた東京都眼科医会の支部として、目を中心とした総合的な健康管理のため眼科医がその役割を果たせるよう、色々な事業を行っています。

会員数は 20 名から 30 名とそれ程多くはありませんが、各会員がお互いの顔と名前を覚えられることが良いところです。

当会は東京都眼科医会の主催する目の愛護デーへの参加、休日診療への協力をしています。板橋区医師会が中心となって活動している親子健康支援事業乳幼児コースへの協力、学校医の派遣、50 歳 55 歳の眼科

検診を行っています。また年 2 回、眼科医のスキルアップを目的とした講演会を含む板橋区眼科医会の集会を行っています。

医療が高度化し、患者さんからのより高い要望に対応するのが次第に難しくなっています。それに対応するには各医師のスキルアップはもちろんのこと、板橋区眼科医会の活動をより充実させ発展させていく必要があると感じています。

患者さんに質の高い医療を提供するには他科の先生方との交流を深めることも医療連携という観点から重要だと考えます。特に眼科は専門性が高いため、自分の殻に閉じこもりやすい傾向があります。板橋区医師会の支部会等に積極的に参加することで、他科の医師との交流から相互に患者さんの QOL (Quality of Life) を高めていけるとよいと思います。



板橋区眼科医会

板橋区耳鼻咽喉科医会

板橋区耳鼻咽喉科医会 会長
島田千恵子

このたびは板橋区医師会 70 周年記念誌に寄稿させていただき幸甚ですが、なにぶん板橋区で開業して 13 年目の若輩者でありますので過去の板橋区医師会通報や耳鼻科医会会報、諸先輩方のお話をもとにまとめさせていただきます。

昭和 36 年にそれまでの耳鼻科医集会が板橋区耳鼻科医会として正式に発足し今年で 56 年目となります。故古屋慶隆先生をはじめ多くの諸先生方のご尽力により確固とした会へと成長してきました。現在国内の耳鼻咽喉科医の組織は、大学所属医・病院勤務医・開業医までほぼすべての耳鼻咽喉科医が所属し日本の耳鼻咽喉科学を学術的に牽引する「日本耳鼻咽喉科学会」と実地医家開業医を主体とする「日本耳鼻咽喉科医会」の双頭により成り立っています。板橋耳鼻科医会は前者の「東京都地方部会」の支部として、かつ後者の「東京都耳鼻咽喉科医会」の支部として位置づけられ、学術活動から地域医療までを担っています。

この 20 年のなかで特記すべきことの第一は、平成 14 年 6 月に東京都地方部会の総会・学術講演会を板橋区が主幹となり開催したことです。これは 24 年に一度の名誉あることで、故岡部一男会長・萩原昭治実行委員長・佐藤玄二演題委員長を中心と

して京王プラザホテルにて盛大に開催されました。演題は「1 歳半までに何とかしようよ、小児難聴」で難聴児早期発見、教育、人工内耳治療までパネリストだけでなく会場からも活発な意見交換がなされ学会は成功裡に終わり、医学雑誌「耳鼻咽喉科展望」(平成 15 年 8 月)に投稿掲載されました。

特記すべきことの第二は、板橋区医師会執行部のご尽力により平成 11 年秋より「喉頭がん検診」が実施されたことです。詳細は検診班のページをご参照いただきますが、早期発見が治癒に直結する疾患のひとつとして昨年度も 1,000 人以上の区民が受診されました。

現在の医会員は 70 代以上・10 人、50 代 60 代・12 人、40 代・7 人の 29 人です。年に 3 回の学術講演会を開き講師をお招きして最新の話題を提供していただいた後、懇親会にて親睦を深めています。出身大学も経歴も様々ではありますが、同じ時代に同じ地域で耳鼻咽喉科医としてめぐり逢えたご縁を大切にして、ともに高め合い地域医療に貢献していきたいと心より願っております。

板橋区在宅医会

板橋区在宅医会 会長
佐藤 恵

■ 発足までの背景と経緯

進歩した医療の恩恵で超高齢社会となりました。医療費削減や病院死の回避などの理由で在宅医療の必要性が注目されています。しかし、在宅医療は本来、地域のかかりつけ医が昔から行っていた診療手段の一つにすぎません。地域包括ケアに向けて多職種と協働し療養支援する必要性が増したことや小児も含め高度医療を必要とする在宅患者が増加したことなどの変化はありますが、地域の療養者を終末期まで支える医療は紛れもなく本来の総合的かかりつけ医医療です。板橋区内で訪問診療を行う会員の先生方から、在宅医療の情報収集や連携の場が必要であるとの要望が増えたことを背景に、平成23年6月に25名の医師が集まり意見交換の結果、板橋区在宅医会が発足しました。地域のかかりつけ医として、小児から高齢者まで継続医療が遂行できる情報提供や医療連携に貢献することが在宅医会の目的です。在宅医会には訪問診療を実施されている医師ばかりでなく、これから在宅医療を始められる医師も参加しています。研修会やメーリングリスト活用により現在の会員数は70名となりました。

■ 副主治医調整会議参加

在宅部主催で開催し、旅行や学会により

在宅医の不在時に緊急訪問を補完する副主治医を決定しています。毎月、アンケートにて翌月の副主治医希望医師と協力可能医師を調査し、この会議で副主治医の決定と前月出勤報告がなされています。

■ 在宅医会研修会

1. 保険診療に係る講演会

在宅医療の診療報酬は複雑で、さらに2年ごとの改定も難解です。改定の際には毎回、石川徹先生にわかりやすくご教授いただいています。

2. 会員の先生方から聞く実践的研修会

診診連携が構築され、会員同士が補完しあう研修会を実施しています。また、訪問看護師との共学は、在宅医と訪問看護師の連携の場にもなっています。(以下敬称略)

土屋洋人「悪化の芽を摘む在宅心不全管理」

中小路拓「在宅における整形疾患」

堀内敏行「在宅糖尿病管理」

野村和至「在宅サルコペニア・フレイル管理」

■ 在宅医会総会・懇親会

年に一度、会員の先生方より近況報告をいただいております。今後も会員の先生方が気楽に在宅医療に関われる場を提供していきます。

板橋区医師会循環器医会

板橋区医師会循環器医会 会長
弓倉 整

■ 板橋区医師会循環器医会発足のきっかけ

板橋区医師会に循環器医会ができたのは、平成11年（1999年）6月16日です。既に18年に及ぶ歴史があります。もともと、板橋区医師会には循環器系検診班があり、平成8年に弓倉が板橋区医師会入会時に検診班班長を指名されました。この件については循環器系検診班のところで詳記しています。班長のまま平成11年に板橋区医師会の理事になりました。その時、当時板橋中央総合病院院長の中村哲也先生が2期目の板橋区医師会理事を務めておられ、理事会で私の隣の席に座っておられました。循環器系検診班の大変さを見かねて、中村先生が「先生、循環器医会を作ませんか。そうすれば自分の病院の先生を医会に入れて医会のメンバーとして検診をお手伝いできますよ」と私に言ってくれたのが、そもそものきっかけです。

それを受けて、循環器医会作りを始めました。当初の目的が循環器系検診班の負担軽減だったので、会長には当時の板橋区医師会病院長である齋藤友昭先生になっていただき、副会長に私、事務局長は中村哲也先生、幹事には循環器系検診班の副班長である上原章先生、弘瀬哲先生、北角博道先生になっていただきました。当時、循環器

医会の事務局は板橋中央総合病院に置いていました。発足時のメンバーは、医師会外からも日本大学医学部附属板橋病院から渡邊一郎先生と塩野元美先生、東京都老人医療センターから桑島巖先生が加わり29名でした。事務局が板橋区医師会事務局に移動したのは、平成26年です。

その後、板橋中央総合病院の循環器内科の先生に循環器系検診の仕事をお手伝いいただいたことが数年続きましたが、循環器系検診班から成人病検診班の独立分離などがあり、循環器系検診班の主な仕事は学校健康診断に限られたため、本来の検診班員のみで学校心臓検診を行えるようになりました。

■ 新しい循環器医療連携を目指して

そのために循環器医会の新しい位置づけと活動内容を、板橋区内の循環器に関心のある医師および循環器専門医、医療機関との医療連携および研修活動を主な活動としました。具体的には年2回の循環器関連の講演会・研修会の開催を軸として、何度か医会員の医療機関をマップに作成して日本大学医学部附属板橋病院、東京都健康長寿医療センター、東京都保健医療公社豊島病院等の循環器内科に配付し、顔の見える連携の働きかけを行いました。

当時、これらの活動には武田薬品工業株式会社が協力してくれました。医療連携マップは、医会員にそれぞれの医療機関の特色、地図、連絡先、連携できる循環器疾患や治療についてアンケートを行ってまとめました。非常に苦勞して作成したものでしたが、残念ながら配付した病院ではあまり利用されませんでした。これらの病院に医療連携室ができはじめた頃で、まだ連携室自体が何をすれば良いのか模索していた時代です。医師会と病院の医療連携会議でこれらのマップに言及すると、行方不明になっていたことも、部長クラスがその存在すら知らなかったこともありました。これにはつくづくと失望したものです。これらの働きかけに対する病院の反応は、後に弓倉が認知症や脳卒中など疾病別医療連携に重点を移すきっかけにもなりました。その後、帝京大学医学部附属病院もメンバーになり、板橋区内の主な循環器医療機関との連携体制が充実しました。

板橋区内の循環器関係の講演会・研究会は、それまで製薬会社主体のものばかりでした。製薬会社が区内の大学病院等の教授や循環器部長クラスを集め、板橋区医師会からも一名加わって幹事会を開き講演演目や講師を決めるというやり方で、どうしても製薬会社の意向に沿った内容にならざるを得ませんでした。また、継続性についても会社の意向に従わざるを得ませんでした。

循環器医会は、これとは違い製薬会社とは独立した医師会内の組織です。循環器医会の幹事は板橋区医師会の会員のみで、実地医家の立場でどのような講演会が適切か

ということを議論しながら主体性を保ちプログラムを決めてきました。循環器医会の定例会も、最初は医会員のみでクローズドの会でしたが、テーマが普遍化したり病院が研修医を連れてくるようになったりしたため、次第にセミクローズドの会になっていきました。本来の「顔の見える循環器医療連携」という目的のためには、この辺りは柔軟に対応したいと考えています。

■ 現在と将来

現在、会長は弓倉が引き継ぎ、幹事には板橋中央総合病院の太田洋先生や板橋区医師会の大野安実先生、野村周三先生も加わっていただいています。当初の循環器系検診班の構成から、検診班以外の先生方にも加わっていただき、板橋区内の循環器医療連携について、主体的に発言できる医会として、その存在価値を高めていきたいと考えています。定例会の協力も武田薬品工業株式会社から第一三共株式会社に変わるなどの変更はありましたが、途切れることなく医会の活動を続けています。

最近では、循環器医会の中に脳卒中予防部会を作り、板橋区脳卒中懇話会と協力して脳卒中予防活動にも関与を始めています。引き続き循環器医の集まりとして板橋区内の循環器医療連携に医師会の立場で活動を継続する所存です。

板橋区皮膚科医会

板橋区皮膚科医会 会長
鮫島 俊朗

皮膚科医会は、第17代野口晟会長の要請で、佐藤喜美子先生（第3支部）を会長として2003年6月に発足いたしました。

佐藤喜美子先生のご尽力により、皮膚科医会の活動も年々充実しております。

毎年6月に、懇談会を開催し、診療の問題や各人の近況などを話し合い親睦を深めております。

2005年4月に発足した城北地区皮膚科懇談会（豊島区、北区、練馬区、板橋区）は、日本大学医学部附属板橋病院皮膚科の照井正教授を中心に池袋メトロポリタンホテルにて、毎年春に開催しています。

2006年6月より6地区皮膚科医会（杉並区、中野区、新宿区、北区、豊島区、練馬区）に加入し、7地区皮膚科医会と名称を変更しました。

7地区皮膚科医会合同学術集会を、毎年秋に京王プラザホテルで開催しています。

2006年より、板橋区の親子健康支援事業に協力しております。

当会には、23名の皮膚科開業医の先生が所属されています。

帝京大学医学部附属病院、日本大学医学部附属板橋病院、東京都健康長寿医療センター、板橋中央総合病院、などの皮膚科の先生には、日頃より医療連携でお世話に

なっております。

2016年より、川田寿里先生（第7支部）に幹事をしていただき、鮫島俊朗（第6支部）が会長を務めさせていただいております。

今後、医師会の先生方と協力して医療貢献のお力になれるよう研鑽して参ります。



板橋区皮膚科医会
川田寿里、佐藤喜美子、平井昭男
望月恵子、鮫島俊朗、吉永和恵
岡田知善、小林幹子、中嶋康之、松下哲也
(敬称略)

板橋区女性医師の会

板橋区女性医師の会 会長
宮田 浩子

日本女医会板橋区支部長の野村和子先生と、平成22年当時板橋区医師会の理事をされていた佐藤喜美子先生が、板橋区医師会において他区と同様の女性医師交流の場を創ることを希望されました。そこで会長野村和子先生、世話人として佐藤喜美子先生とお声がけいただいた宮田をもって、理事会で承認を受け板橋区女性医師の会が発足しました。

活動内容は、毎年春に都内で懇親会と秋に1泊旅行を開催し、毎回会員による各科にまたがるレクチャーを実施しています。その結果他科の先生に質問しやすくなり、患者様の要望に応じた他科の女性医師の紹介も可能になりました。会合は先輩の先生方のお話をお聞きできる貴重な機会でもあり、和やかな語り合いは日々の診療に活かされています。

今後板橋区女性医師の会が増々発展しますよう、平成29年度から新しい幹事として加わってくださった池田光実先生と共に尽力させていただきたいと思います。



平成22年3月22日
女性医師の会発足の懇親会において

活動内容のまとめ

	懇親会日時	懇親会出席人数	研修旅行日	研修先	研修参加人数
H22年	3/27	17	11/7～8	奈良	5
H23年	7/30	11	11/5～6	伊勢	9
H24年	3/24	10	10/27～28	秋保・平泉	7
H25年	3/30	12	11/9～10	東北	6
H26年	3/29	13	11/16～17	琵琶湖	9
H27年	3/28	15	11/14～15	白川郷	13
H28年	3/26	15	9/18～19	箱根	9
H29年	3/25	14			

板橋区産業医会（地域産業保健センター事業含む）

板橋区産業医会 会長
多比良 清

昭和57年に板橋区医師会産業医会が発足致しました。平成24年に医会の体制整備がなされ、公衆衛生管轄から総務管轄となり、名称は「板橋区産業医会」となっています。内容的には従来のもとは異なるものではありません。一覧の様に、産業医会総会と産業医研修会を開催致しました。

東京城北地域産業保健センターでは板橋区、豊島区、練馬区の3区の窓口として産業保健事業を推進しています。毎年、運営協議会が開催され、3区の産業活動に関する理事、産業医会運営委員ならびに、池袋労働基準監督署、池袋労働基準協会、3区の産業連合会、東京都医師会産業保健担当理事、東京労働局労働基準部健康課、東京産業保健総合支援センターからご出席いただき、センター運営を協議しています。

平成26年4月より産業保健三事業一元化により「産業保健推進センター事業」、「地

域産業保健事業」、「メンタルヘルス対策支援事業」の3つがワンストップサービスとして総合支援を労働者健康福祉機構（現在の労働者健康安全機構）が実施するようになり変りました。これに伴い東京城北地域産業保健センターでも登録産業医、スタッフを含めて勤務体制整備がなされました。

平成27年12月より「ストレスチェックの実施」がすべての事業所に義務付けられました（但し50人未満の小規模事業場は努力義務）。これに伴い、平成28年春から東京城北地域産業保健センターでも小規模事業場からストレスチェック後の面接指導の実施希望があった場合、相談事業を開始いたしました。平成28年度の実績は12名です。

平成28年度から板橋区医師会と協力して板橋区産業医会でも「健康経営」のモデル事業を開始し、今後事業所労働者の健康推進を進めて行く予定です。

東京城北地域産業保健センター実績

年度	健康管理の相談 (メンタルヘルスを含む) (人数/事業所数)	健康診断結果意見聴取 (人数/事業所数)	長時間労働の面接指導 (人数/事業所数)
H23年度	6/6	173/15	20/12
H24年度	16/7	263/23	26/13
H25年度	5/4	346/28	40/13
H26年度	4/4	348/27	30/11
H27年度	14/7	405/25	30/16
H28年度	8/6	318/33	14/11

板橋区産業医会総会と研修会

(敬称略)

年 度	開催日	総会・研修会	講 師
H18年度	H18.7.12	第 23 回 板橋区医師会産業医会総会	
	H18.9.30	城北ブロック産業医研修会 (1)法改正による過重労働対策について (2)事業場における職場復帰の進め方 (3)じん肺関連疾患の読影	東武練馬中央病院 院長 熊木敏郎 杏林大学医学部精神神経科学教室助教授 山寺博史 ひらの亀戸ひまわり診療所 医師 名取雄司 都立豊島病院呼吸器内科 部長 市岡正彦
H19年度	H19.8.30	第 24 回 板橋区医師会産業医会総会	
		板橋区医師会産業医研修会 (1)産業医に役立つリスクアセスメント	トラスト (T-RAST) 研究所 代表 橋 良彦
H20年度	H20.10.25	第 25 回 板橋区医師会産業医会総会	
		板橋区医師会産業医研修会 (1)メンタルヘルスについて (2)長時間労働への面接指導チェックリストの解説 (3)判例から学ぶ産業医活動のポイント	杏林大学医学部精神神経科 山寺博史 土屋労働衛生コンサルタント事務所 所長 土屋 譲 加藤労働衛生コンサルタント事務所 所長 加藤雅治
H21年度	H21.10.8	第 26 回 板橋区医師会産業医会総会	
		板橋区医師会産業医研修会 (1)産業保健と食生活に関する保健指導	せんぼ東京高輪病院 栄養管理室長 足立香代子
H22年度	H22.9.26	城北ブロック産業医研修会 (1)職場復帰の進め方 (2)職場の感染症対策について (3)職場巡視へのアプローチ	杏林大学医学部精神神経科学教室 助教授 山寺博史 野田労働衛生コンサルタント事務所 所長 野田一雄 土屋労働衛生コンサルタント事務所 所長 土屋 譲
		H22.12.15	第 27 回 板橋区医師会産業医会総会
H23年度	H23.7.27	第 28 回 板橋区医師会産業医会総会	
H24年度	H24.4.11	第 29 回 板橋区医師会産業医会総会	
	H24.7.9	第 1 回 板橋区産業医会総会	
H25年度	H25.10.11	第 2 回 板橋区産業医会総会	
		板橋区医師会産業医研修会 (1)海外渡航時に注意すべき感染症やワクチンについて	東京医科大学病院 渡航者医療センター 教授 濱田篤郎
H26年度	H26.11.1	城北ブロック産業医研修会	
		(1)産業医が知っておきべき若年性認知症について	和光病院 今井幸充
		(2)労働者の健康情報の取り扱い	獨協医大名誉教授 武藤孝司
		(3)海外勤務社の健康管理 (4)がん罹患患者の就労支援	東京医大渡航者医療センター教授 濱田篤郎 東京労災病院治療就労両立支援 門山 茂
H27年度	H27.6.30	第 3 回 板橋区産業医会総会	
		板橋区医師会産業医研修会 (1)これからの職域保健～労働安全衛生法改正を受けて～	東京大学環境安全本部 助教 山本健也
H28年度	H28.9.6	第 4 回 板橋区産業医会総会	
		板橋区医師会産業医研修会 (1)過重労働およびストレスチェック面談報告書の書き方 (2)産業医活動で難渋した症例	東京都医師会 産業保健委員会 委員長 上田 晃 内藤医院 院長 内藤利勝
H29年度	H29.10.14	第 5 回 板橋区産業医会総会	
		板橋区医師会産業医研修会 (1)メンタルヘルス問題の苦慮事例への対応	産業医科大学ストレス関連疾患予防センター 特命講師 戸津崎貴文

板橋区スポーツ医会

板橋区スポーツ医会 会長
藤田 雅巳

本会は平成13年1月31日、野口晟先生を初代医会長に「板橋区健康スポーツ医会」として発足しました。設立趣旨は、日本医師会認定健康スポーツ医（以下 日医スポーツ医）の育成・研修を行うと共に、板橋区主催の荒川市民マラソン（現在：板橋 City マラソン）や、各種スポーツ大会等へ医師派遣要請に協力し、併せて地域スポーツの振興に寄与することを掲げました。当時の会員数は18名で日医スポーツ医の先生方で構成されておりました。

平成15年6月、第2代医会長に杉田尚史先生が就任され、翌年11月11日、会則の変更に伴い名称を「板橋区医師会スポーツ医会」に変更されました。同時に、日医スポーツ医、日本整形外科学会認定スポーツ医、日本体育協会公認スポーツドクターのいずれかの資格を有する板橋区医師会員の先生方もご参加可能となり、21名の先生方が会員登録されました。

平成23年6月、第3代医会長に天木聡先生が就任され、翌年12月18日、板橋区医師会の公益社団法人移行に伴い、名称を「板橋区スポーツ医会」に変更されました。

私は平成25年6月から第4代医会長の職を拝命し、同年6月14日には新たなスポーツ医会として発足いたしました。現在、24名の先生方が登録されています。

主な活動として、講習会（日医スポーツ医の研修会）を開催し、最新の情報を提供すると共に、スポーツ外傷などの知見を内科系の先生方にもお伝えできるようにしています。また、板橋 City マラソン大会などに医師派遣協力をしております。



板橋 City マラソン救護所での活動

過去に開催された主な講習会・講演

H28.11.30	「スポーツ障害に対する超音波診療：運動器エコーの現状と未来」	帝京大学医療技術学部スポーツ医療学科 笹原 潤
H28. 2.18	「運動と睡眠および気分の改善」	早稲田大学スポーツ科学学術院 内田 直
H27. 3. 2	「スポーツにおける内因性事故の現状」	マリアンナ医科大学スポーツ医学講座 武者 春樹
H25.11.27	「ドーピングコントロールと国際大会について」	豊島病院整形外科 山岸 恒雄
H22.11. 8	「健康づくりにおける運動の重要性」	東京医科大学健康増進スポーツ医学講座 勝村 俊仁
H21. 8. 6	「活性酸素とスポーツ医」	大東文化大学大学院スポーツ・健康科学部健康科学科 太田 真
H21. 3.15	「スポーツ外傷の救急処置について」	東京都医師会健康スポーツ医学委員会 小笠原 定雅

板橋区産婦人科医会

板橋区産婦人科医会 会長
佐藤美枝子

医師会 70 周年おめでとうございます。

50 周年の記念行事はすでに過ぎ、そこから 20 年の経過が経ったとのこと。

私事ですが、板橋に開業して 12 年半が経過し、産婦人科医会会長職はまだ 2 年と少し。支部の役職は副支部長、支部長をやらせていただきましたがまだ医師会の仕事内容や詳細については全くといってよいほどわかりません。

只々板橋の婦人科の先生たちのつなぎ目としての役割と伝達事項や新たに決めなければならない事項を会員の先生たちと話し合っていくという役目をして過ごしております。

幸いにして楽しいイベントを計画するのは大好きで、納涼会や新年会は必ず評判のお店を探します。

当区では、産婦人科医会の会長と支部長はわかれてお役目をいただいております。

この 2 つのお役目を兼任する区が多いようですが、仕事の分担の点から考えるととても良いことと感じております。対外と区内とわけているということになり会長と支部長の連絡が密にとれば全く問題はありません。

現在、地震等緊急避難時の産婦人科医としての対応というテーマで、板橋区内の大

学病院と連携について話をすすめています。

また産婦人科医会員の先生方は、決められた救護施設へ出向くまえに必要なとされれば大学の産婦人科へ優先して援助に行くことができます。

実際に行動できる会員の先生への聞き取りを行ったりしております。

2006 年から妊婦さんとそのパートナーを対象とした親子健康支援事業プレママ・プレパパコースを医会員の先生たちに持ち回りで講師をお願いしております。さらに、2016 年より子宮がん検診時にお子さんの一時見守りにつき依頼があり、テストケースとして 1 施設で施行、2017 年には 3 施設で行っています。

今後は婦人科医の往診についての要望があり、詳細を詰めていく予定です。

まだこの職に浅い私としては、目の前にある事柄を解決するのがやっとです。

私よりももっと詳しく産婦人科業務や問題点についておわかりの先生がおいでと思いますが、今回はお役柄私が現状の説明とさせていただきます。